

はぼたん

—— 発病・加害時期
 === 発病・加害最盛期

作型・病害虫名	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地									●	▲			
									は種	定植			収穫
萎黒アコヨ オト	黄腐ムシ								—————	—————	—————	—————	—————
	病病シガ類								—————	—————	—————	—————	—————

萎黄病

防除方法

- 1 あぶらな科の連作を避ける。
- 2 発病株を速やかに処分する。
- 3 土壌のpHを7前後に高くすることで、発病を抑える。
- 4 苗床、本田を土壌消毒する。(XⅢ土壌消毒 参照)

・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 ☐

【花き類・観葉植物 20～30kg/10a は種または植付前/1回】

黒腐病

留意事項

- 1 種子・土壌伝染する。
- 2 9～10月の多雨時に発生が多い。

防除方法

- 1 健全な種子、種子消毒済の種子を用いる。
- 2 苗床、本ぽでは水はけを良くし、マルチなどで土の跳ね上がりを防止する。
頭上かん水を避ける。
- 3 発病株・被害葉はほ場外に持ち出し処分する。
- 4 発病を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ [バリダシン液剤5](#) ☐18 【800倍 発病初期/8回】

アオムシ

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。
- ・ [アディオン乳剤](#) ☐3A 【2,000倍 発生初期/6回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・ [オルトランDX粒剤](#) 1 B 4 A

【2g／株(但し、40g／㎡まで) 生育期株元処理 発生初期／4回】

コナガ

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [カスケード乳剤](#) 1 5 【2,000倍 発生初期／3回】
 - ・ [ノーモルト乳剤](#) 1 5 【2,000倍 発生初期／2回】
 - ・ [エスマルクDF](#) 1 1 A 【花き類・観葉植物 1,000倍 発生初期／-】

ヨトウムシ類

留意事項

- 1 若齢幼虫の防除に重点を置く。
- 2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アファーム乳剤](#) 6 【花き類・観葉植物 1,000倍 発生初期／5回】
 - ・ [プレオフロアブル](#) UN
 - 【花き類・観葉植物 ハスモンヨトウ 1,000倍 発生初期／4回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 1 3
 - 【花き類・観葉植物(除きく、ストック) 2,000倍 発生初期／2回】
 - ・ [フェニックス顆粒水和剤](#) 2 8
 - 【花き類・観葉植物(除きく、りんどう) ハスモンヨトウ 2,000倍 発生初期／4回】
 - ・ [マッチ乳剤](#) 1 5
 - 【花き類・観葉植物(除きく) ハスモンヨトウ 2,000倍 発生初期／5回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。